

職員による自己評価

A環境面

教室は明るく清潔に保たれている。
バリアフリー化に関しては、現在の利用者様には適切であると思われる。

B児童への支援内容

公文学習による療育プログラムを毎日のミーティングで、指導員が話し合い各生徒に適切な指導をしている。
自己肯定感を育てている。

C関係機関との連携

各部会に出席し、他の事業者の担当者と療育についての情報交換を心がけている。

D保護者への説明責任・信頼関係

送迎サービスがないので、ご利用のたびに保護者にその日の療育について報告し、保護者からの要望も必要に応じて適切な助言や支援をしている。

E非常対応

入所時にアレルギーや持病について確認している。

保護者による評価

A環境面

子どもの活動スペースが適切に確保され、教室のデザインも明るく過ごしやすい。

B児童への支援内容

基礎から丁寧に指導してもらっているので、満足している。
その日の子どもの状況（体調・精神面）に応じて細かく対応してもらっている。

C事業所からの情報発信

ホームページや毎月受取る「あさがお通信」から情報を得ている。

D非常対応

目の前が小学校で指定避難場所のため、避難しやすく、定期的に防災訓練をして子供の非常時への対応力を育成してくれている。

事業所内での分析

【共通点】

支援内容については、保護者からもご満足をいただいている。
子供たちも通所を楽しみにしているという声も多くいただいている。
基礎から無理なく生徒に合わせて学習を進め、学習効果を上げている。その結果、保護者の方からもご満足をいただいている。

【相違点】

働いている保護者の方からは、送迎サービスの希望がある。
学習効果を下げるため、長時間の教室滞在はできないことを保護者にご理解いただくこと。

分析・検討してみて…

事業所の強み

公文教育研究会より正式な指導施設として、サポートを受け、公文式学習による療育プログラムを実施している。

その結果、子どもたちが集中力をつけ、学習向上により自己肯定感を高め、自信をつけている。

毎回送迎の際、保護者の方に、その日の学習の状況を報告し、子どもの療育に活かしている。

事業所の改善点

ひとりで通所している生徒の場合、保護者との連絡を密にし、生徒の状況を伝え、生徒の家庭での様子などを共有して、今後の療育に活かして行きたい。

新しい職員の研修、プログラムの指導や内容の確認を徹底していく。

事業所の改善への取り組み

- ・新しい職員には、公文の研修を受け、レポートを提出してもらう。
- ・職員の持っている資格を保護者に分かるように開示し、毎月の「あさがお通信」に掲載する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

多くの保護者から療育内容について、ご満足をいただき、これからもこの結果に満足せず、子どもたちの療育に職員一同情報を共有し、より一層邁進してまいります。